

# 物語の内よひを読み取る

名前	組番	月日	正答数
			4

ねらい ●場面の様子や登場人物の様子を思いえがく。

## 問題

次の文章を読んで、あとで問題に答えましょう。

「ホミと、ホミのうちでかつてているヤギのユリは、大のなかよしでした。ユリにはジロウという子どもがいました。

だれかによばれたような気がして、ホミがこやに行つてみると、<sup>①</sup>ユリのようすがおかしい。

くびをなげだして、べったりとねているのです。

「ユリ、どうしたの。水をのむと、げんきが出るんだよ。」

急いで水をくんでいって、あたまをもちあげたけれど、口もあけない。  
「どうさん、かあさん、ちょっと来て。」

ホミは、なきながら走りました。

みんなで、つのつけねをマッサージしたけれど、ユリはよわつていくばかりです。  
<sup>②</sup>「ユリ、どうしたの。うん。」

ホミのかおを見るけれど、何も言つてくれません。

ジロウが、たおれているユリのおっぱいをのもうとして、さわぎます。

「かあさん、どうかしてよ。」

そこへ、どうさんが牛のおいしゃさんをつれて、もどつてきました。

でも、じゅういさんも、どうすることもできません。

「何か悪いものを食べたのかなあ。それにしても、こんなに急によわるものかなあ。」

くびをかしげながら、かえつていきました。

「はらぺこだ。ごはんを食べてからにしよう。」

とうさん、かあさんが引きあげます。

ホミは、しきわらの上にすわって、ユリのあたまをひざにのせたままでした。

おしりがぬれても、そのままでした。

こやのうらで、カエルがないでいます。

とおくで、犬がほえてします。

<sup>③</sup>「ユリ、がんばれ、ユリ、がんばれ。」

ホミは、カエルにまけないように声を出しました。

ユリは苦しそうなきをつくけど、目はいつものやさしい目のままでした。

(加藤多一「やぎさんへてがみ」より)

◆読み取りのポイント①◆

〔たいせつ〕

だれがどうしたか、あらすじをとらえましょう。

登場人物

ホミ(女の子)

ユリ(ヤギ)

ジロウ(ユリの子ども)

とうさん

かあさん

じゅういさん

でき」と

ユリの具合が悪くなつた。

じゅういさんも、どうすることもできない。

ホミは、苦しそうなユリをはげました。

(1) ユリのよつすがおかしいとあります。ユリはどんな様子でしたか。次の□にあてはまる言葉を、文章中からぬきだしましょう。

① □をなげだして、□とねている。

② 水をくんできてのませようと、□あけない。  
□をもちあげたけれど、□も

(2) 「ユリ、どうしたの。うん。」とホミは言いました。ユリのどんな様子を見て、ホミはこう言つたのでしょうか。次の□にあてはまる言葉を、文章中からぬきだしましょう。

みんなで、つのつけねをマッサージしても、ユリはいくばかりだった。

〔たいせつ〕

ホミの様子を思いえがきましょう。

・ユリがおかしいのに気づいて、とうさんとかあさんをよびに行つたとき  
↓なきながら走つた。

・とうさんとかあさんが引きあげたあと

↓しきわらの上にすわつて、ユリのあたまをひざにのせていた。

「ユリ、がんばれ、ユリ、がんばれ。」と声を出した。

(3) 「ユリ、がんばれ、ユリ、がんばれ。」とあります。ホミは、どんなふうに言いましたか。次から一つえらびましょう。

ユリに聞こえないように、小さな声で言つた。

2 カエルの声にまけないような声で、ユリをはげますように言つた。

3 とうさんやかあさんに聞こえるように、せいいっぱいの大声でさけんだ。

4 さわいでいるジロウに注意するように言つた。

（ ）

## 物語の内・よひを読み取る

●・●・●・●・●・●・●・●

(1) くび・べつたり  
① あたま・口  
② よわって

2

(1) すぐあとに「くびをなげだして、

べつたりとねているのです。」とあり

ます。この様子を見て「ユリのようす

がおかしい」と、ホミは思ったのです。

(3) カエルのなき声と、犬のほえる声

が聞こえて います。そういう声にま

けないような声でホミはユリをはげ

ましたのです。